

鶏肉情勢

令和4年9月9日 更新

全農チキンフーズ㈱

項目	内容
供給	1. 国内 (1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和4年6月末実施)によると7月の推計実績は処理羽数58,429千羽(前年比97.5%)・処理重量173.3千ト(同96.5%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.9%下方修正され、処理重量は前月時点の計画値と変わらずとなっている。処理重量が前月時点の予測と同じことから、気温上昇による増体の鈍りについては各産地で日齢を伸ばす等の工夫をして予測通りに育成できたとみられるが、処理羽数については計画値を下方修正していることから、熱中症や床面の環境悪化などによる大腸菌症による斃死など、今回の酷暑の影響が少なからず出たのではないかと推察される。 (2) 8月の処理羽数・処理重量はともに前年を上回る見通しとなっている。地区別で見ると中部地区で処理羽数が前年を下回っているが、関東地区で処理羽数・処理重量が前年を上回っている。8月も酷暑が続くことが予想され、増体の鈍りや育成率の低下が懸念される。また、海外技能実習生の不足に加え新型コロナ感染拡大での工場の人員不足は深刻であり、加工品(手羽中ニツ割・砂肝スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整は続くこととみられ、年末特殊品(骨付もも・雑煮用切り身等)の製造への影響が懸念される。
	2. 輸入 (1) 財務省8月30日公表の貿易統計によると令和4年7月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から6.6千ト減の45.6千トで、国別ではブラジルが▲6.3千ト、タイが▲0.3千トとなっている。前年同月の実績に対しては0.9千ト増となった。新型コロナウイルスの影響によるタイの人手不足が回復し、生産量も増加傾向にある。(独)農畜産業振興機構(ALIC)による今後の見通しでは、8月が47.3千ト(前年比100.8%)、9月が47.2千ト(前年比104.4%)となっている。7月実績は前月輸入量より減少したが、8月以降は増加が予想される。年内は現状の価格見通しが続く予想。タイの人手不足も回復し、徐々に副産物も製造量が増える予測もある。為替の影響もあり、現状の水準で価格は動いてはいるが、外部冷蔵庫への入庫困難な状況が深刻化しており、デマレージ(超過保管料)が発生している状況が起き一部在庫消化に動き出している業者もある様子で、緩やかに下がり基調の話も聞こえている。今後の動向に注視したい。 (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から2.4千ト減の43.8千トで、国別では中国が▲0.4千ト、タイが▲2.0千トとなった。前年同月の実績に対してはほぼ同数量となった。タイの人手不足が回復し、徐々に国内向けにオファーがきているが為替の影響により価格帯は現状の水準である。外食についてはコロナ第7波の影響を受け失速気味であるが、中食・総菜向け等の引き合いは継続して強い状況なので、今後の動向に注視したい。 (3) 財務省が8月30日に公表した貿易統計によると7月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より68.5%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より22.8%上昇した。依然として、世界的なコストアップや為替相場の円安により高値が続いており、ブラジル産の価格が352円/kg(前月比51円高)、タイ産が460円/kg(同32円高)となっている(国別平均価格)。ブラジル産は世界的なコスト高や円安の影響もあり価格が上昇しており年内は現状の水準との予測であるが、国内市場価格は緩やかに下がり基調。タイ産については人手不足の回復やEU向けが落ち着いてきたとの話もあるため、今後の国産鶏肉への影響に注視したい。
	3. 業務・加工筋 (1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和4年7月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比92.6%の4.6千トとなった。うち国内品は同103.9%の3.9千トと前年を上回り、輸入品については同59.3%の0.7千トと前年を下回った。
在庫	1. 令和4年7月 (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産28.9千ト(前年比83.6%・前月差▲1.6千ト)、輸入品121.1千ト(同106.5%・同+2.1千ト)と合計で150.0千ト(同101.2%・同+0.4千ト)となった。
	2. 見通し (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年9月6日更新)では、7月の出回り量は国産134.5千ト(前年比98.4%・前月差▲6.4千ト)、輸入品43.5千ト(同82.6%・同▲5.3千ト)と合計で178.0千ト(同94.04%・同▲11.7千ト)となった。8月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から引き合いが強くと予想し、引き続き在庫は減少していくと予想する。輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように7月、8月とも前年を上回る見通しであり、外食・総菜向け等の引き合いは堅調なことから、輸入在庫は8月は前年をわずかに上回る一方、9月は前年をわずかに下回ると予測する。
相場	1. 令和4年8月動向 (1) 令和4年8月の月平均相場は、モモ肉649円/kg(前月差+12円)・ムネ肉354円/kg(同+14円)正肉合計で1,003円/2kgと前月を26円上回り、前年同月を112円上回った。モモ肉相場は月初644円、月末は652円となった(昨年は月初590円、月末579円で11円の下げ)。昨年の相場より単価が上回り、2008年以来、正肉価格が1,000円を超えた。要因としては依然として牛・豚等と比較すると安価な鶏肉に消費者の需要があり、生産状況も夏場の暑さの影響を受け増体の鈍り・育成率の悪化により供給量が減少し需給が締まったと思われる。ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、前月から14円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫量自体が薄く、安価で国産ムネ肉を集荷することは非常に厳しい。輸入品価格の高騰・供給量の減少により、国産凍結品の引き合いは強く、価格も高水準で推移していくと思われる。
	2. 見通し (1) 9月の生産量は、依然として酷暑による増体悪化により減少する可能性がある。また、引き続きコロナ禍による工場稼働への影響も懸念される。需要面では、気象庁発表の「向こう1か月の天候の見通し(9月)」によると、9月についても気温は全国的に高く、平年並みか平年よりも高くなる予測となっているが需要期に向かっていくなかで気温の上下により食肉需要自体への影響が考えられる。外食の消費については新型コロナウイルスの影響を受け落ち込んでいる状況である。国産冷凍品は輸入品価格の高騰により、一部国産への切り替えも見られ、タイトな状況が続く価格も高水準で推移するものと思われる。以上から、生鮮品の販売については気温の上下に左右されることも予想されるが、凍結品での需要が依然として高く、供給面でも不足が予想されるのでモモ肉相場はもちあいの月平均650円前後と予測する。ムネ肉相場はやや上げの月平均360円と予測する。 (2) 直近の販売状況は、生鮮品についてはもも肉・手羽元の販売は苦戦しているが、冷凍品での引き合い、また、酷暑の影響を受け供給量は低下しており荷余り感を感じられない。凍結品は依然として高水準の価格で推移しており、販売各社は年末商材(凍結モモ肉・骨付もも)の確保に動いている。量販店においては鶏肉に限らず輸入食肉全般の価格が高騰していることから特売を打ちづらく、苦慮していると聞かれる。売り場の切替え時期に向かっていくなかで、様々な食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば安価であり、価格も安定している鶏肉に需要がシフトしていくと考えられ需給はタイトに推移していくと思われる。

実績

生産状況

単位:千羽、千トン、%

	R4年7月推計実績		R4年8月計画		R4年9月計画		R4年10月計画	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
入雛羽数	63,238	99.0%	65,789	100.5%	66,925	101.9%	68,537	97.3%
処理羽数	58,429	97.5%	59,698	103.0%	60,446	101.6%	62,993	99.6%
処理重量	173.3	96.5%	175.3	102.2%	178.3	100.3%	188.3	99.2%

※参考資料:㈱全国食鳥新聞社発行「PMN」

輸入動向

単位:千トン、%

品名	鶏肉			調製品			合計			比率	
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
R3年累計	595.8	535.0	111.4	481.0	469.5	102.5	1,076.8	1,004.5	107.2	55.3	44.7
R4年2月	49.6	45.5	108.9	38.8	34.2	113.3	88.4	79.8	110.8	56.1	43.9
R4年3月	45.1	55.6	81.1	47.8	43.9	108.7	92.9	99.5	93.3	48.6	51.4
R4年4月	43.6	50.2	86.9	44.1	45.8	96.3	87.7	96.0	91.4	49.7	50.3
R4年5月	42.5	46.2	91.9	42.1	36.0	117.1	84.6	82.2	102.9	50.2	49.8
R4年6月	52.2	42.8	121.9	46.2	40.5	114.2	98.4	83.3	118.1	53.0	47.0
R4年7月	45.6	44.8	101.9	43.8	43.9	99.9	89.4	88.6	100.9	51.0	49.0

※参考資料:財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向

単位:グラム、円、%

履歴	数量			金額		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R3年平均	1,526	1,565	97.5	1,410	1,440	97.9
R4年2月	1,483	1,428	103.9	1,404	1,359	103.3
R4年3月	1,550	1,528	101.4	1,439	1,406	102.3
R4年4月	1,512	1,556	97.2	1,368	1,384	98.8
R4年5月	1,476	1,527	96.7	1,403	1,426	98.4
R4年6月	1,433	1,461	98.1	1,375	1,328	103.5
R4年7月	1,439	1,440	99.9	1,345	1,265	106.3

※参考資料:総務省統計局HP「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年)

単位:円

	モモ肉	ムネ肉	計
H26年	626	294	920
H27年	639	336	975
H28年	621	255	876
H29年	626	315	941
H30年	595	282	877
R元年	585	243	828
R2年	614	269	883
R3年	641	313	954

在庫状況(推定)

単位:千トン、%

履歴	国産			輸入品			合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年2月	33.9	27.5	123.2	129.3	129.7	99.7	163.2	157.2	103.8
R4年3月	32.5	28.8	112.9	125.2	135.0	92.7	157.7	163.8	96.2
R4年4月	31.3	31.7	99.0	116.3	129.8	89.6	147.6	161.4	91.5
R4年5月	31.2	32.8	95.1	115.7	129.4	89.4	146.9	162.2	90.6
R4年6月	30.5	34.1	89.4	119.1	121.7	97.8	149.6	155.8	96.0
R4年7月	28.9	34.5	83.6	121.1	113.7	106.5	150.0	148.3	101.2

※参考資料:(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別)

単位:円、%

品名	モモ肉			ムネ肉			正肉合計		
	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比
R4年4月	622	678	91.7	315	305	103.3	937	983	95.3
R4年5月	624	659	94.7	321	303	105.9	945	962	98.2
R4年6月	624	631	98.9	326	296	110.1	950	927	102.5
R4年7月	637	600	106.2	340	301	113.0	977	901	108.4
R4年8月	649	583	111.3	354	308	114.9	1003	891	112.6
R4年9月	(650)	580	112.1	(360)	316	113.9	(1,010)	896	112.7
R4年10月	(660)	603	109.5	(360)	328	109.8	(1,020)	931	109.6

※()は見通し